



伊倉っ子
だより

【学校教育目標】

豊かな心と確かな学力を身に付け、
心身ともにたくましく生きる
児童の育成

伊倉小学校だより

第11号

令和7年11月4日

文責：校長 須藤 隆

体験を通して学ぶ ～見て、感じて、考える学び～



平和祈念公園で平和集会をしている様子

10月は、9日の4年生の通潤橋見学をはじめ、15・16日の6年生の長崎修学旅行、24日の3年生の有明防災館見学、29日の1・2年生の阿蘇ミルク牧場見学と、各学年で校外学習を実施しました。（5年生は7月に芦北・水俣への集団宿泊教室を実施しました。）天候に恵まれ、充実した学びとなりました。

どの学年も事前学習を重ね、現地での学びに生かしていました。特に6年生は、修学旅行に向けて戦争当時の様子を調べたり、地域学校協働活動推進員の松本さんから話を聞いて

たりして、平和について深く考えていました。

右の写真は、原爆資料館に展示されている「岩のように固まった赤土」です。8月9日、原爆で4人の子供を失った両親が、自宅に残った赤土を形見として大切に残していたものです。親の思いを考えると胸が締めつけられます。私も十数回この資料館を訪れていますが、そのたびに平和の尊さを強く感じます。

平和を学ぶことは、戦争の悲惨さを知るだけでなく、「自分がどう生き、どう行動するか」を考えることでもあります。そのためは、知識だけでなく、心で感じる体験が大切です。戦争体験者の話を聞く、資料館を訪れる、写真を見て思いを巡らせる。そうした経験が、子どもたちに深い気づきを与えます。「もし自分がその立場だったら」「自分にできることは何だろう」と考える中で、平和を守る心が育れます。

学びは知識だけでなく、実際に見たり聞いたり、五感を通して体験することで深まります。体験を通して感じ、考えることで、学んだことを自分のものとして理解し、日常の行動や思いにつなげる力が育ちます。これからも、見て、聞いて、感じる学びを大切にしていきたいと思っています。



原爆資料館に展示されている岩のように固まった赤土

校長室から ～読書のすすめ～

以前の学校だよりで「読書」についてお伝えしましたが、先日の全校集会でも子供たちに話しました。

私が通った小学校は児童約700人の規模で、図書室は狭くいつも混雑していました。パソコン管理もなく、紙のカードに印鑑をもらって借りるため、長い列に並んでいたことを覚えています。それでも、小学生の頃に借りた本の題名はよく覚えており、「おしいれのぼうけん」、「シャーロックホームズ」シリーズ、「星新一短編集」などがお気に入りでした。中高生になると次第に本を読まなくなり、大人になった今「もっと読んでおけばよかった」と感じます。

読書には、①言葉の力がつく、②考える力が育つ、③思いやる心が育まれる、などたくさんの効果があります。

そこで、子供たちには「毎日本を読む」「いろいろな種類の本を読む」の2点を勧めました。

私は、「今年の夏休みに10冊、本を読む」という目標を立てました。今、私のバッグに数冊の本を入れて、いつでも読むことができるようにしています。

朝晩冷え込み、秋が深まるこの時期、親子で読書を楽しむにもよい季節です。



国語の授業で3年生の子どもたちが1年生に読み聞かせをしている様子

